

令和元年度 いじめ防止標語コンクール

優秀賞作品

「どうしたの」 親から子への 命づな

優秀賞は6作品あり、毎号紹介しています

階上町立道仏中学校
2年 松村 大輝
(※受賞当時の学校と学年です)

学校を核とした地域づくりに向けて ～地域学校協働活動の推進～

地域学校協働活動とは、地域住民、学生、保護者、民間企業等の幅広い参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

県教育委員会では、今年度から「学校を核とした地域づくり推進事業」を実施し、地域学校協働活動の更なる推進を図っています。

地域学校協働本部構築モデル事業

県内で設置例がない、または事例が少ない形態の地域学校協働本部を設置し、今後設置する市町村のモデルとして、学校と地域との連携・協働を進めながら地域課題の解決に取り組む活動を行います。

今年度は、①コミュニティ・スクールの導入と本部を一体的に設置(むつ市・平内町)②公民館に本部を設置(黒石市)③中学校区に本部を設置(鶴田町・風間浦村)の3つの形態で本部設置を目指し、活動に取り組んでいます。

モデル市町村の取組事例

むつ市放課後子どもプラン運営委員会 合同チャレンジ教室

来年度の地域学校協働本部設置へ向けた事業として、市内3つの子ども教室を一堂に集め「合同チャレンジ教室“さわってみよう!ドローンってなんだろう!”」を令和2年10月31日(土)にむつ中央公民館で開催しました。

当日は、大湊小学校、関根小学校、脇野沢地域の子ども教室から児童約30名が参加し、ドローンクイズ、自動飛行のプログラミング、マニュアルでの操縦、ドローンを使った釣りゲームなどを行いました。

担当の社会教育指導員は、「児童が少ない学校だからこそ、他校の児童や、学校の先生や指導員以外の大人との“ふれあい”を体験させる機会にしたい」と話していました。

参加児童は、普段の子ども教室のメンバーとは違う仲間や大学生、地域の方々からたくさんのお話を学びました。



ドローンクイズの様子



プログラミングする児童



ドローンを使った釣りゲーム

黒石市教育委員会 宿泊体験学習会

令和2年11月21日(土)～22日(日)に宿泊体験学習会を六郷公民館で開催し、地区の5・6年生児童7名が参加しました。

初日は、老人クラブとのゲームや、児童クラブの子どもたちとペンシルバルーンや缶バッチづくりなどの活動をしました。食事は、六郷婦人会や、食生活改善推進委員会の方々が調理し、参加児童も配膳や皿洗いなどを一緒に行いました。

2日目は、児童が考えたメニューを自分たちで調理し、普段お世話になった方々に振る舞う「会食パーティー」を行いました。

参加児童は、「新型コロナウイルスの影響で、学校で調理実習などができなかったので、参加できてすごく楽しい」と話していました。

この取組は、今後公民館職員を中心として、児童が地域の様々な方と関わりながら地域学校協働活動を進めていく黒石市の「モデルケース」となりました。



ペンシルバルーンづくりの様子



予算を計算しながらのメニューづくり



食後皿洗いをする児童

地域と学校のコラボレーション研修

教員や地域学校協働活動推進員等が、地域学校協働活動に関する知識と理解を深め、地域と学校をつなぐために必要なコーディネート力や、学校・地域双方に求められる役割について学ぶ研修会で、今年度はこれまで県内4地区で開催しました。

上北地区と三八地区では講師に大槌町教育委員会教育専門官の菅野祐太氏を講師に迎え、「提案します!新しいカタチの地域と学校の連携」をテーマに講義・演習を行いました。

演習では、学校・地域双方の悩みをそれぞれの立場で話し合い、悩みを共有しながら解決策を考え、地域と学校の連携の大切さについて学びました。



三八会場



上北会場

来年度は、地域との連携を担う教職員研修(地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教職員の役割について学ぶ研修)も開催予定です。